



綴子抄書本偶

二

~ 13
3106
2



ほろりと涙はけ方ありて合力をばりあわしんはききと情づつと情
とらぬ術の更なり泊御に知しとる者か。故由と申へる金をとるの
ととわらぶとふれど今わらと申しふかをねて来るべしとて浪人も
尚らうと。我も情あつと荒れをさるとふらうと知り頼まのうせぬと
由縁ありて。花御にさるとと敷かれど。妻と省今日とていひと
つぞまうと合力をばりさ小ぶらも情と申ひつと頼の一條
愛くとも申あつと頼をさるとふらと。丁寧につひれは美奴の呵と
おなじい御より。汝が為体とてしに時めとあままをさるとと知り
傷の證と制絶と後申し兄なりかど。荒れを恥辱をわくを合
ふらと。其所速に去と辛目とせんと思ふとて。罵れ浪人も
身にとりて。只情をさるとあまくと。於看欄んで実運り

つと、揚見にさかひか。其奴様とと聞さぬ荒れ忙り。美男と申すめ。
妻の情と願ふ方あり。情とわしにさつとんと本意あつと。まづはねをばり
ろく彼浪人も側にあり。膝と妻が谷とをりぬひ頼とさとのさまをさ
い何とさるとや竹も。さういふと。茶をたあつと床札と借と
うらわらぬ浪人も頼て懐より互に。揚枝わらうと取つと。おれ揚枝にて
けんが能生と。再しにさつと人頼と頼ありとつひつと。ばりなりと
つと。荒れ不審と面やりて。つと。さつとさつとさつと。さつとさつと。さつと
ふ縁由と告のひと。頼にさつとさつと。お時ありとつひつと。さつと
原西四武士水泡信を助とる者。ゆありて浪人も。官途のゆと絶と
又他漏れが。頼ありて。當年八月十五日鶴岡八幡の放生會
に訪ぐと。けんがと。容と。我の何れをさつと

浪人も頼て懐より互に揚枝わらうと取つと。おれ揚枝にて

忘れが口説のひん切多るは心ゆくありと。編笠に隔りて。顔はみゆきと。
さひ焦る妻が公と今日より君と奔るべし。さうかぎりあつとよく夢を
のへび沙に視し君とあつる時わがうらむ巻のりし序なる公とよの
人の嘲り心もさうらむに抄さうかひ揚屋が海へ通ひぬ客とあつるや
於居れわのわしに厭ふ。その時こそ妻が公裏と色まきまきつせん。
連まらり雛妓に密着服紗包とさうつごせ。信太の助がひいよ母の信太を
助彼服紗包乃重ととりて令らるとを如り。忿然とてさうわがり。抱
とついで董が面を投つれば包をけ令らるる時にもわぬ茶藤乃
死と散て力づくも。然り嘗て積の書と讀みし。財とありて文
る者財盡て文と絶と色とりて文る者華落と麦論といふこと
わりの。嚮のやうはつひつれど。我れか一夜乃揚代とさうのへびははは

わしと。路頭にて恥辱と顧みしひより。我心の深さを。せ文の色と財と
とりてせむ。公とて盟とみんとす。いかに。多ある今とわりの。花車や
中へんがひつる。我れ抱きしに來ぬ者とや。慢アらん。かくと成
文ぶる粉頂と。あつて。年月暮ひ。かたが。恨アも。立と。人。と。色。れ。は。
某周章推つ。さう。妻が。い。わ。や。ま。ら。之。故。と。せ。ぬ。人。と。う。ち。は。つ。ひ。と。苗
ひらと。信太の助。い。と。し。れ。ど。空。の。ひ。て。は。人。事。と。否。以。と。と。と。成。も。と。と。
は。某。が。ひ。と。抱。き。し。と。つ。て。ひ。と。ま。は。編。笠。に。隔。り。て。ひ。と。と。ひ。と。と。解。笠。と。
地上は撲的と落し時初と。信太の助が面と。年二十たる。と。お。は。
く。色白く眉秀。せ。類。多。と。美。男。子。が。り。情。れ。も。ら。い。ま。れ。一。葉。か。れ。ど。
狗とく。と。お。は。り。根。然。と。る。面。と。れ。柄。あり。て。ひ。と。の。謀。と。し。ゆ。か。と。
今と贈らるる妻が惜り多。只管に免さぬ人と。願ふ。信太の助が中刀

扱らし雪と欺く腕とさうのびあるや突割て盟とそんとなんれ信太
 のまけ忙しくおさめ我一具乃怒りに来舞面とのまひつれ。実にちかか
 赤心を知るさるはあしど。仮やと父母れ送解と破るとさるれどひ和め
 けいば甚と心からわく女童よまのよ妻俄に病む苦むとつら。今青
 の客とあうまわくせうこつひ中。信太の助と誘ひ往んよれれ大車
 と物笑男おとさうこころへおひねと董がらや鹿むらりと恃とあれ言
 懲ととらあがる故強はとさめど。信太の助へよ紙夜一布をそで甚
 が罹渡の決く連文に取く。色あ高樓に登アリも。女肆々菱屋とて
 後に長蛇と阻前よ津渠と臨む。曲屋歩欄とさう。判りし。さう後ち
 の助の妻よと姿に。浴茵乃うふ羊。頓て懐より近江布の汚穢賤布
 とさう。さうにひて。雅妓に扱れれ。さうひく。に祀に五十兩。

餘る合あり。そとくは信太の助の嚮にさう。浪れ力に。外よ寸溜り
 内よ半銭と貯も。自法貧と甘む。頗聖賢れ書はさうあり。義田なり。が
 行る。悪因塚も。独羊よ花甚に懸意ふ。其おひとさう。さうか
 辛万苦と調へ。合れれ明日は栄治乃料か。とさう。まれと惜とさう
 ども。されれに合さ。甚と残さう。つひ。さう。花車に忽地笑
 とつら。教子乃歌妓と叫集。明燭と炳は酒を酌嚮。信太の助を朝比
 とさう。後悔のさう。さう。さう。同よ夜と深れ。甚坐とさう。信太の助を
 とさう。市販と扱と。後夜と接て。うら。取けら。さう。夜の中とさう。つら。鴉の
 さま。さう。さう。信太の助を。和。紀。別。告。とさう。人
 さけ。時。さ。時。ひ。さ。さ。さ。さ。信太の助。紋。と。襟。一。上。袖。と。お。お。

和らぎの(妾)が力より(支)記。つらふさ(此)腋(こ)も(か)く(胸)と(さ)る(牛)に(は)ら(言)を(ま)して(歎)け(此)雪(次)も(漸)く(公)解(高)浦(ら)あ(り)面(を)や(あ)りけん(也)も(切)つ(て)ち(ま)れ(つ)入(り)る(高)浦(の)あ(り)に(土)息(して)一(人)り(ど)まひ(り)る(高)浦(の)母(さ)る(り)心(又)吉(さ)る(の)願(の)力(を)宣(ひ)て(税)言(し)と(る)り(ぬ)あ(ら)え(ぬ)と(し)れ(ど)そ(れ)と(我)れ(拙)ゆ(へ)れ(と)恨(ん)縁(と)は(し)と(る)金(所)の(色)香(あ)る(花)も(ら)り(し)ま(う)と(も)ひ(屋)し(る)脊(より)高(浦)が(袖)と(違)ひ(く)雪(吹)が(堀)の(田)子(松)と(い)ふ(の)交(彼)つ(も)年(若)り(れ)と(奸)曲(邪)智(の)愚(者)は(と)の(好)色(を)う(た)れ(ば)と(ま)と(の)と(を)志(す)と(冷)方(く)性(年)勘(当)と(深)念(い)り(せ)と(う)と(ま)と(り)近(曾)雪(吹)が(亡)入(り)七(回)忌(の)法(受)の(や)り(因)樂(さ)る(ま)ぐ(に)流(く)雪(吹)と(和)め(ら)び(互)と(し)その(ま)り(花)高(浦)は(恋)も(れ)が(か)く(は)わ(る)ふ(今)彼(が)歎(息)と(や)る(ま)ぐ(涙)と(落)と(る)ま(は)い(り)て

か(の)小(は)は(と)と(も)金(り)も(や)根(づ)へ(し)か(ら)と(告)ま(り)と(る)と(の)の(れ)や(が)知(ら)ぬ(ら)吉(さ)去(煩)も(假)粧(坂)の(花)君(何)某(が)逢(く)通(ひ)中(が)て(彼)と(妻)と(ま)と(る)契(物)の(小)の(と)つ(ひ)つ(る)ま(ら)も(ら)れ(は)其(方)は(津)人(お)ら(れ)つ(ま)が(ら)に(や)る(人)と(信)実(て)つ(ひ)く(れ)高(浦)ら(ら)微(笑)妻(が)公(よ)祈(ら)る(吉)さ(ら)と(夫)と(り)め(り)か(ら)る(と)と(ま)と(く)け(つ)も(妬)心(を)添(増)ん(つ)る(母)上(不)便(と)加(ゆ)を(と)妻(の)身(と)昔(と)も(れ)水(仕)女(乃)も(多)し(は)と(る)あ(ら)女(と)も(は)ひ(る)命(も)更(に)恨(ん)ま(ら)ひ(け)と(つ)ま(田)子(松)積(も)と(打)た(る)公(賢)女(も)一(人)り(や)言(は)ふ(強)く(ら)と(ま)り(る)と(思)ひ(ら)う(ら)と(中)ん(ま)が(我)い(と)と(や)る(多)原(ま)は(富)麻(原)の(季)母(雪)吹(が)仕(似)と(り)家(に)て(因)樂(は)吉(さ)と(流)て(乃)贅(塔)と(れ)吉(さ)の(の)と(れ)お(か)れ(は)季(母)の(心)を(ま)は(や)く(吉)六(丈)多(り)後(人)の(因)樂(も)を(追)追(ま)い(ん)と(ら)り(が)不(便)や(人)れ(か)と(は)と(ら)ら

よせそ密語は田子松たういさび町々そびへと音多りしと押さめな成也
奸計と謀人合けり

四 ふいよとんこ

かくて托君董の信夫は健生甚かきとてあゝ夢のまふ三年と過りける。
いふおつて信太は助絶て死術にけりしどくおふれ消息なきのときん等
に來れ頃より信太の胸風のむねとより似てゐるのやぶらさせる旁にもわ
とりに病中りうと多りゆき分れ枕をそのけがて。今も身は迫り
一章として告ふしけれは甚か敷かあるど長處次第にかくとて
半日の暇と清く。信夫は老女を抱せ信太の胸を隠家へ移さるるは縁てす
おはれいづもまぼゆつにけりけるに樹木森とこしとてこころよく人ぞや
むこゝ索他なるときさづみとてや鉦鼓の考まきさかればこそいふれ林乃

うらに信人あつとせむひより信夫は老女を碎并甚かきと摘とて餘念を
抱かると幸ひ甚かき一人供と俱ぞ彼鉦の音と知方あつと尋しんを
お端かきと壁わらして荒すさうく庵わり果せるかたさみんち
とて芦簾より向り開くふ究而まういさ人乃信家とせむれ殊も西
えがやゝ烟とむもび藝を二すぶかり積おくれ調度と及えむは檀を
おさほや西窓よりに坐し鉦より多しと其かまがさき信太の胸
かりつと病勞しとてえ髪と丸れガうら堀づきおけしよ智面影とてに
甚か胸まう。はと走つて信太の胸より雫涙よりをくはとては
信太の胸と鉦より止甚かきとて大に驚きまか人乃はてうけ家には入りし
文に現しとせむと向ねし時甚か信太の胸を傍と訪人なり。長きよまき人
免とてのち信夫よりをせりし仔細にけり。せむらとて安先がらそ

此れ又まゝの彼等の尋惑下へぐと告ぐ歎きとていふと信太の助押
 とめまゝくけ所れ路路物手に分れど悉く死巷はく。うち捨切しとて
 け家れ前よりあぐりいづんは必死なり。がゆへに信太はへきとありと。病は弱
 る膝ももろ。腰ひらうて。若く小腕脊に抜わげ。わらやと喚と。おきよ。他と
 拭ろく。猿轡足はまゝとる。葛菟れ繩とまじ。幸とち。子小ひに然わと。
 づゝ。意愈りてとて。おと。ひ。怨み。り。ん。お。は。い。一。條。の。お。が。あり
 あり。ひ。を。定。く。せ。べ。と。和。し。れ。坐。に。か。も。我。り。こ。願。ひ。あり。く。
 性年。は。謙。念。に。ま。り。が。不。幸。に。一。く。宿。意。と。遂。に。刺。れ。れ。と。病。も。苦
 一。く。所。論。を。復。少。と。て。と。せ。た。也。と。甲。斐。さ。し。今。と。か。か。今。病。も。仍
 て。死。ん。と。武。士。さ。る。者。れ。也。意。の。あ。く。ど。今。月。今。自。生。害。の。よ。ん。と。や。ひ
 極。し。それ。抄。や。し。か。人。才。は。家。に。ま。り。し。へ。と。く。あ。り。さ。縁。や。ら。め。あ。ら。わ。れ。ど。

女は乃弱より。我切腹とぞめ妨げと知さん。と。げ。理。と。ま。あ。ん。と。ま。ん。と。こ。よ
 かく。う。う。う。ひ。さ。り。か。ん。身。と。一。夜。の。横。疎。に。り。ひ。け。一。子。と。信。夫。と。多。く。を。実。を
 男。子。さ。る。は。ま。ま。や。う。彼。十。五。才。に。つ。く。べ。一。品。と。あ。え。あ。ん。と。捨。れ。袋。と。取
 つ。く。び。う。し。に。は。我。種。性。と。い。ふ。遺。言。れ。仔。細。と。か。さ。て。籠。か。さ。し。う。其。期。と
 ま。ま。も。漫。に。開。く。と。さ。れ。と。い。ひ。つ。兩。肌。お。ね。け。ら。甚。く。視。に。服。も。く。ら。ひ。て。か。と
 ま。い。ら。氷。れ。及。信。太。の。胸。に。徐。に。服。腹。一。突。く。と。う。ま。う。ま。う。の。ま。を。ま。ま。と。あ。ん
 と。ま。し。れ。ど。搦。き。れ。一。繩。に。ひ。り。く。屍。居。に。倒。れ。勢。多。く。大。に。柱。と。り。る。若。く。信。太
 の。ゆ。も。不。便。と。さ。ひ。其。方。の。歎。を。か。か。い。ど。毛。皆。宿。意。の。忠。業。と。贈。を。お。り。し。れ。ど。
 未。來。へ。極。樂。に。生。れ。女。夫。さ。う。く。そ。ひ。と。ま。ん。我。か。さ。の。ら。と。一。番。一。華。乃。供
 養。に。や。ら。ぶ。と。信。夫。と。ま。健。に。お。ひ。し。と。あ。ら。う。と。あ。れ。ど。う。人。か。さ。追。善。か。り。
 噫。諺。言。ひ。似。つ。れ。ん。は。信。太。の。胸。に。一。滴。余。れ。の。い。わ。じ。は。は。と。切。り。を。知。り。し。時

義とまのら公のつひのに舎つるよとほまはる金波は只一日のり人のや
 と昨日まのいサひつれど不熟愛りき顔とくく人ほひ切らる生害と
 未練乃を記人く。身ま死まらる心乃哀づをかり考くく人推量せしと
 してつと多と切目多ぐひまきまらセバ甚六狗を確るくサひ力と極えく
 ひきぶつと。結目と締結繩輪廻乃祥にけくまれく。サはらひひま信太の助。
 涙れあものねり落葉無緒多る縄まして時差と膝より刃刀逆りしりりた
 一。吃搔切て律絶より甚る死骸にそのまらる。おののかさう泣か。ぶとまこよ
 風のれくろ管のめまぐ。ありし庵を知ら消うせ。愕然とくく眠覚ぬ甚へ
 昨日長の暇とまひ。今日夕人信太。あが許と訪めとサひ麻れ一夢のぬら
 夢ほくのりけらる。とほにこのもわるんわくく。つとまきと支度とそめ人



信太の助
 疾乃瘡
 茅屋に
 生害かそ

信夫と老女に抱くもるどつと夢に似く胸まぐさぐさなりぬ後者かゝるどあり
 ことあつて嘯きしり。後かく死な合ふつりけるか。木立れめやりある
 より。路の傍にわひりしを夢に祝つるに一語の違ふ。けろそとを合ふ
 果しく白屋あり。後者が喧ふとまりしを夢に庵に居りしを合ふ見れ。膝む
 づ。信夫の胸へ腹一文字にかきま。湯の袋をたらしに秘を俯臥に倒し
 けり。夢の周章走りしより亡骸とや動。敷き果べしと見え。けれ後ひ
 ともり者あり。且該き。且怪き。しつべきとを知らぬ。夢精あり
 て。そより落し涙とそめ。夢中ら度とと詳にかり。作隣り人にけり
 とかくして信太の胸に死骸と首原岡に埋け。怪しく。信夫の胸を鬼
 草が圍房にまこりて。想と多に告つる。のれ草が夢魂死な合ふつりて
 信太の胸に最期と祝してつるもの。を。角ま。し。音あるとにあり。

〇ころ箱に富度屋あり。い言に婚嫁と兼務せざるはと。雪吹の閑樂にまき
 けれ。我れと。ひま。せ。あ。か。り。と。兼。ま。ぐ。さ。ひ。つ。せ。の。ふ。か。り
 りひ。花。の。四。五。箇。月。と。経。く。夏。の。中。に。を。かりぬ。盆。の。不。火。炎。暑。が。こ。と。く。
 堪。が。こ。り。し。を。日。傾。て。お。涼。風。と。生。ず。蕭。々。と。遠。里。ふ。ま。ま。人。弾。を。そ。り
 羊。れ。糸。に。自。来。筆。ある。と。寵。の。よ。ぐ。と。や。ま。し。し。く。や。鼻。者。と。し。ま。し。れ
 くる。頂。吉。六。竹。縁。に。蒲。延。と。し。ら。せ。ひ。ひ。り。涼。居。れ。高。蒲。と。一。室
 と。ら。し。る。種。ろ。草。と。か。ぶ。下。花。壇。に。水。と。浮。べ。し。と。も。ふ。と。る。如。あ。も
 お。お。ひ。あ。る。か。の。き。え。人。と。悲。し。く。て。ま。ご。花。咲。ぬ。糸。裁。ひ。び。ま。ね。縁。し。と
 う。ち。眼。め。ど。い。ん。ぐ。ひ。の。忍。ぶ。さ。あ。が。れ。ぐ。る。魂。を。と。ん。の。あ。る。お。れ。堂。前
 先。で。反。に。暮。と。ま。ぎ。く。人。か。れ。高。蒲。の。吉。を。側。に。居。り。居。り。母。人。の。側。に
 八。幡。宮。の。法。の。あ。ま。を。田。子。松。の。の。と。法。門。出。ち。ま。さ。る。ひ。今。に。飯。ア。来。ま。ま。と。ぬ。る。

下の子因うくサ少は殊に仲又ありとソひあつて鳥九郎と申す人の名を
 少とせし物多り其奴はと捕ま鞠回をてと分り知らんを多りと先からん
 とあければ彼男固章まふ外面のめえ逃つぐるはつて追ひ代吾七
 と腹へ走りてサのれえ人疑とソひとてとふかき逃れんとて
 ころりあつてとソひつと冷首抄へと動せと念と申人代吾七へ人
 とソひカとぬけとソひつとソひれへ腹へお掛けに呵と笑ひ顔目
 娘が人とおひりあつて行跡と公憎くハサひハガ計技ありとてと速
 告述りてと幸因もせん鳥府サつてと禁じ打擲をも萬浦へと逃つる
 とソひハサひかこもつて兄が言實れ災難と視るに城のひとてアまら
 ちの守りれど打らむと接炭雪乃腕力と究とむむ高浦と
 又起あつてとむさつてと杖を振り足とまてとソひ撞と尻居よ倒る腹八

代吾七とソひ外面に欠出住度とれど被曲者れ種方へとソひをれつる
 代吾七の奥にサ江人困樂と一室とてと坐する高浦と扶起し嚮りり
 為伴紙門と隔てとてとありサをれ腹八言とてと代吾七と打擲
 とソひ問書簡と持さり男とてとあつて思者からサ女と罪をま
 わつてとてとよく言懲りれ腹八と恐をを腕ある肌は袖とひさかけ併
 裾とほろろひとてと下れ方に屈居り。浩如へとれあら四十にあらと女
 乱れと扱と老糸にて結び綴一室夜とてと顔實とてとハカレと眉目と
 抱妖とてとササ戸と慌へと押ひとてと取と色と代吾七が胸前と
 子と捕ハカレ代吾七大に驚きとてと彼女とてと泣けとてと放
 ことと喃ハカレ幾許り患苦とてと索あつて甲斐とてととてと腕
 んとてと代吾七とてととてと泣けとてと泣臥代吾七益呆れおのれど



辰一と...



...

宣抄の権の権見のるべし。さあまきでる。我の濡衣を。り。と。あ。ぬ。其。形。が。り。
 かる。と。や。怒。り。れ。び。し。く。我。に。疑。の。かり。や。せん。疾。去。と。踢。孔。を。挫。的。倒。
 て。記。し。わ。ぐ。し。む。雨。樂。と。役。す。く。彼。女。と。熟。視。かり。其。奴。の。う。つ。塔。の。衛。の。
 乞。食。の。り。を。か。け。く。大。沙。を。れ。か。り。あ。く。常。に。し。つ。る。女。かり。察。も。も。に。あ。く。ぬ。
 と。ま。り。ら。は。富。彦。屋。に。恥。辱。を。わ。く。拍。棄。し。ん。と。く。来。り。の。か。り。く。人。事。
 大。跡。に。誘。ひ。追。ち。る。べ。し。と。い。ふ。と。段。八。更。り。吉。三。と。公。焦。燥。く。等。の。と。
 耳。に。と。れ。し。中。に。佐。五。と。実。は。汝。高。浦。と。兄。才。の。せ。疾。々。證。を。見。せ。よ。
 分。説。の。う。ぶ。き。う。ん。む。ら。い。つ。と。言。せ。ふ。く。同。り。と。非。人。乃。女。の。才。と。昏。く。食。被。
 と。才。と。記。さ。る。は。其。の。違。と。高。浦。と。比。乳。は。在。さ。う。と。あ。く。腹。は。く。こ。お。と。
 ざ。り。て。下。り。ま。く。と。も。と。と。段。八。か。と。く。立。角。で。り。其。の。れ。が。粗。人。の。の。と。
 押。し。づ。ら。し。て。せ。じ。ぶ。ま。あ。の。り。げ。あ。る。の。の。い。び。ご。ま。必。定。淨。子。由。縁。在。

べ。と。ど。何。等。の。者。か。れ。が。彼。等。兄。才。と。か。く。ら。ち。怨。恨。と。し。ふ。は。彼。女。顔。と
 據。び。白。地。ふ。ま。の。か。ん。恥。辱。と。や。ぬ。者。と。笑。ひ。の。六。推。か。ぐ。く。惆。悵。胸。苦
 しく。と。と。く。ん。と。ん。と。あ。く。来。つ。れ。が。比。後。よ。か。ら。ん。と。伊。は。か。く。妻。皇。都。よ
 あ。り。つ。つ。と。ま。る。水。昔。と。よ。ひ。て。白。拍。子。は。く。い。が。不。図。佐。五。を。夜。に。ま。り。と。り。
 情。が。云。乃。解。と。あり。佐。五。を。あ。り。ら。る。り。遂。に。彼。地。を。亡。命。に。津。の。四。長。拍。
 隠。信。受。入。の。か。く。と。と。人。の。教。妾。と。舞。の。指。南。と。細。き。煙。の。と。か。き。ぬ。れ。ど。
 此。年。と。い。ふ。と。の。の。い。く。三。年。四。年。過。と。い。ふ。と。つ。ら。か。る。故。に。名。家。出。て。數。人
 乃。歸。す。来。ま。と。ぬ。の。と。隣。家。の。處。女。多。り。高。浦。の。手。を。僅。方。を。れ。ぬ。
 乃。高。浦。と。来。ま。と。ぬ。の。と。密。通。と。も。せ。ら。れ。給。じ。と。あ。く。其。女。に。責。し。に。今。と
 け。ん。計。扶。は。く。勾。ひ。の。の。の。と。あ。く。遂。に。津。度。覺。と。ら。ぬ。長。月。や
 凡。の。ふ。ら。れ。と。損。果。れ。く。自。身。の。り。が。其。妻。の。と。も。い。つ。ひ。男。の。か。り。の。い。よ。

ふく糸丸焦慕を冷なすかか。着病をもなき乳類之嵐に残る病葉に疆面令
くもろりく。吾妻をいかなのまろく。関の東よりわらば。あは病草不臥
そまろろきか。索遠飢に望せりく。往來の人乃決に携て。賤が妙端よ
傍徨く。花空りらふかをむかひ。死かんとせしむ。我許度せしむかへり
今日まごもほかか。命乃甲斐ありく。塚舎つらうれい。に怨人とむを
まきめ。妻が力に同度ありく。我度言懲く。妻をよびてぬれ
と。ひつ。涙湧がじ。僕吾も水苔とせし。腕我の素の肌はく。成長妻とる
めを俱つる。かむ。又にかか。か。も條かまき。をまよゆる。我の飛に世
れんと計嚮に書簡と持て。りく。曲者。汝が同子ある。か。と襟後娘んて
ひまて。これ水苔ふむ。とら泣く。か。か。年と婚。これ老女あり
しきと疎く。か。宜ふ。き。これ海山越く。と。東國乃そり

伶傳きく。は後ほく。か。と泣く。居れ。吉と。と。あり。か。久。久。宋
れ。あ。ま。れ。又。い。い。ふ。ま。言。と。あ。く。も。僕。吾。も。あ。り。怒。れ。に。地。も。水。苔。貴。尊。
と。同。果。さ。ん。と。あ。き。と。困。樂。少。時。ま。も。私。と。制。笑。は。汝。け。女。と。あ。り。か。る
中。こ。と。ひ。か。れ。は。僕。吾。も。答。と。く。し。嚮。り。か。は。ほ。ま。く。窺。へ。け。平。久
彼。が。面。体。と。あ。れ。る。に。似。く。又。相。識。せ。し。あ。く。も。こ。の。ま。あ。り。さ。ん。と。え
と。困。樂。然。況。ま。か。く。傍。ふ。わ。り。か。る。角。監。に。如。あ。乃。水。と。り。吾。嘗。昔。ま。く
鮮。血。と。水。に。つ。も。れ。親。子。の。交。り。兄。弟。と。あ。り。合。和。と。あ。り。海。等。木。意
を。實。に。罪。に。せ。ら。る。る。言。ま。く。に。語。あ。け。ん。と。あ。り。あ。り。か。り。ひ。て。兄。妹。と。あ。り。久。久
か。く。水。苔。と。あ。り。か。計。技。と。自。來。茂。覚。べ。と。い。ひ。に。葛。藤。は。と。と。か。か。枯。魚
乃。斗。水。に。活。る。せ。ひ。ひ。ん。の。ち。も。く。う。ち。も。ほ。ひ。冬。人。乃。宜。つ。ま。も。う。と。く。乃。に。せ。か。ん
か。く。と。あ。り。わ。れ。ど。證。を。い。ひ。つ。ふ。と。と。冷。あ。方。は。あ。れ。き。く。疑。ひ。ん。し。あ。い。と。

一ノ巻

二ノ巻

汚名を雪ずるは腕戒刀よりくあらや刺がえんとあそむに依吾七瀬く
 其子とてめ、服家君に今にとあれ吾のせいであつたまをかりかかご
 とく高浦膝ととてめ、まの流ぬくと宿みのめあふ。あつた流ぬとく
 云に歎ひかり。愛國のあつた厭はぬと不良を有されく。かの埋木をもち
 とて人肉を分つる兄才の鮮血を氷にく合さんととく安きことかかん
 何とて踏踏のふと涙を共にかま口説く。依吾をかんと又まに隠れきく
 春とかさど。吉三かたつる刀と記。依吾をと縁より下に突落く。女君は作
 せり。いと拵て観居れば汝取前水音の對し孤りとしてひか又かことふ
 傍僅に肉刀と肥鮮血と合きるととく入かたつる。縦高浦と密通あつ
 ざらんとせよ。汝が公行の計策あると歴せると我をも宗われ分所よ
 依吾と遠き。高浦と流る急すの家のと流るべくとつてもさうつ依吾七

膝の不動のいつきわれごとく落し涙は硬高浦さうれととき入と閑樂も
 不便とたひ。あつた毛と吹て疾よりとむると中へ汝等が丹心と我くもわ
 くと潔白くさうんとく。却て吉三が歎いとまうしり。知くも汝が實
 の兄才はくわつた。噫とれも由縁のものとさうべし。は悔るとと論
 多のれも宿世の悪業の報いまでりとせひとく。高浦りらと疾は
 所と立去く。便直と寝ひかりくと隱居(音信)雪吹く家に帰るべとと
 ととに直美しく。入はととむとむとひつて立く戸柳より。服差一腰を
 せと捨る。刀は用なき。卷巻と汝さうとさうさう。小柄へ獅子。牡丹の彫子の
 強弱と試みる。喩りぬと不意高浦も親し捨られく。さど便多し。折へたれ
 かまの疑く。芳くあつた。頻而は家より。は還く。再度花咲富貴茶。附節とゆ
 うと言諭。只佐吾七とく。と涙と落る。あつた。受まの。を又よ答人言まも



浪人伝 二の巻 十一
 依吾七

かく原来高蒲と小子とトツの困樂サとめや。作吾七最前れ書同とににめ。
 非人の女が為侍。巧く巧く吏とあ。れねはれよサ。び分明よ分説と。なを非と
 ころめめわし。是言と敬とと。ころれと。傍と顧れ。作吾七も困樂と。六理
 わるい感激と。泣ける高蒲と。ひと。て今中と。く。祇と罪と。サと。めと。計
 投と。言れ。後。は。生害のとも。何人か。噴。孰。く。不。便。と。サ。へ。ま。父。王。の
 と。は。あ。ま。ひ。一旦。其家と。立退の。人。之。失。の。罪。は。落。つ。に。其。念。念。云。然。と。と。
 心。の。つ。ぐ。移。る。ま。公。乃。月。會。雲。と。と。科。戸。の。風。は。邪。乃。雲。と。拂。ひ。て。又。清。光
 と。見。る。遠。く。は。と。何。後。と。搔。わ。け。く。御。高。蒲。と。透。け。外。面。の。け。立。出。れ。ど。
 水。苔。も。後。は。後。ひ。く。喃。我。妻。妾。が。口。乃。不。良。く。わ。ら。ふ。と。と。サ。へ。あ。げ。美。ゆ。い。
 こ。を。妻。と。ま。ま。あ。ら。う。ゆ。き。あ。ひ。る。べ。こ。も。憎。く。と。と。サ。り。と。と。め。と。何。干。ん
 吐。き。つ。切。戸。と。つ。れ。は。作。吾。七。水。苔。が。首。と。あ。ら。う。と。投。背。に。換。あ。ぞ。く。動。せ

と。家。君。の。こ。と。を。サ。ら。捨。サ。け。ば。い。ひ。も。止。ど。サ。ら。う。ま。ま。と。い。ひ。か。け。く。汝。ら。先
 何。者。も。告。白。さ。せ。と。責。と。水。苔。も。妻。く。け。き。ま。ま。う。腰。と。捨。く。さ。り。不。ど。ま。サ。
 と。と。言。と。い。ん。と。も。逃。れ。せ。と。作。吾。七。又。抱。つ。と。思。あ。ら。う。に。隙。へ。窺。ひ。あ
 持。の。の。ぐ。打。か。ら。心。の。あ。ら。う。と。閃。く。持。と。足。下。と。踏。サ。せ。ば。わ。か。く。水。苔
 其。同。い。れ。池。も。あ。く。と。逃。失。う。高。蒲。の。悲。歎。の。涙。に。ひ。び。夢。の。友。人。を。ひ
 へ。く。う。く。い。語。も。う。作。吾。七。乳。を。焦。燥。段。へ。は。公。と。め。め。と。何。と。サ。ひ
 つ。げ。ん。磯。と。小。膝。と。う。ろ。ろ。あ。く。閃。と。裾。と。と。せ。サ。つ。げ。ん。と。ま。ら。う。と。止
 る。段。八。妨。あ。と。ま。と。子。練。の。作。吾。七。胸。と。う。投。く。突。倒。せ。ば。床。と。う。ろ。ろ。展。開。ぶ
 仕。ま。は。し。う。ろ。と。走。り。又。立。度。と。高。蒲。は。む。し。ひ。あ。く。う。ろ。の。来。ま。せ。と。言。指
 水。苔。が。あ。と。と。追。か。け。き。る。

狻多指昔木偶二之卷 後

戻りて二の巻

